

# 越境する漱石文学

坂元昌樹・西槇偉・福澤清 編

▶四六判・280頁／定価2,940円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1565-2

好評発売中(2011年7月)

漱石の生涯にはたびたびの「越境」が認められる。それは青年期から壮年期にかけての松山・熊本・ロンドンでの漂泊に顕著であるが、それは「越境」の実践ではなかったのか？熊本大学の研究プロジェクトによる漱石論集の第3弾となる本書では、第1部において、漱石と世界文学との関わりを考察。第2部において「越境」の実践としての「漱石と熊本」という視点から、漱石の熊本時代の評論、エッセイ、交友関係を考察する。

## 内容目次

### I <世界> からみた「漱石」

- <地方>と<世界>の間で  
——漱石の「グローカリズム」と「明治の精神」—— 柴田勝二 (東京外国語大学総合国際学研究院教授)
- 異文化の対話  
——豊子愷「縁」と夏目漱石「ケーベル先生」—— 西槇 偉 (熊本大学文学部准教授)
- <知>の覇権へのまなざし  
——漱石『虞美人草』と張文環『芸娼の家』を中心に—— 蕭 幸 君 (台湾東海大学日本語文学系准教授)
- 精神病者をどう描くか  
——チャーホフ、中村古峽と漱石—— 佐々木英昭 (龍谷大学国際文化学部教授)
- [研究コラム]  
フランスのラジオで語られた漱石 濱田 明 (熊本大学文学部准教授)

### II <世界> をまなざす「漱石」

- 漱石作品と思想  
——熊本との関連から—— 福澤 清 (熊本大学文学部教授)
- 漱石『文學論』の布石  
——熊本時代に書いた三つの評論—— 西川盛雄 (熊本大学名誉教授)
- 第五高等学校時代の夏目漱石  
——論説「人生」を読む—— 坂元昌樹 (熊本大学文学部准教授)
- [研究コラム] 漱石の初期俳句 岩岡中正 (熊本大学法学部教授)
- [研究コラム] 横井時敬と熊本 相 馬 登 (首都圏秋田歴史と文化の会代表)

思文閣出版 〒605-0089 京都市東山区元町355 【2011年6月27日より左記に移転】 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注 文 票		発 行 : 思 文 閣 出 版		(京 都 取 引 コー ド 3402)	
冊 数	冊	越境する漱石文学	本体2,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1565-2	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				書店番線印

**漱石文学の水脈**

坂元昌樹・田中雄次・西楨偉・福澤清編

漱石文学がどのような思想と背景のもと生み出され、日本を含む東アジア文化圏においてどのように受け入れられ、どのような影響を与えてきたか、「<漱石>への水脈」と「<漱石>からの水脈」という二つのテーマから検証する10篇。熊本大学の教員を中心とした共同研究。

▶A4判・280頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1506-5

**漱石と世界文学**

坂元昌樹・田中雄次・西楨偉・福澤清編

「世界文学において漱石をとらえなおす」という視点のもと、夏目漱石が世界文学を意識し、そこから多大な影響を蒙ったことの検証だけでなく、漱石がその後の世界文学に与えたインパクトや、世界で漱石文学が翻訳のかたちでいかに受容されたかなども見極める9篇。

▶A6判・260頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1460-0

**夏目漱石における東と西 大手前大学比較文化研究叢書4**

松村昌家編

明治の文豪・夏目漱石の小説において、そこに織り込まれた西洋的概念と東洋的概念の葛藤、直接影響を受けた小説との比較、イギリスの事物の受容の様相など、気鋭の研究者たちによる漱石文学論。

【内容】小説美学としての「非人情」／『吾輩は猫である』におけるメラネリアと神経衰弱／奇人たちの饗宴／漱石の薔薇戦争など

▶A5判・208頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1335-1

**言語のあいだを読む 日・英・韓の比較文学**

大澤吉博著

東京大学大学院で比較文学の指導に当たり、在職中に急逝した氏の研究成果。その主題は夏目漱石、漱石を中心とした日本文学の他言語への翻訳、外から見た日本文学と日本文化、そしてイギリスと世界との関わりである。30年以上にわたる多彩な研究の全体を広く学界に提示する遺稿集。

▶A5判・550頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1524-9

**与謝野晶子と小林一三**

逸翁美術館編

晶子が一三に贈った「源氏物語礼讃歌」短冊全54枚(カラー)、これを詠むきっかけになった、上田秋成筆「源氏物語短冊貼交屏風」(カラー)をはじめ、その由来を記した手紙や、交流を物語る資料116点を収録した、逸翁美術館特別展覧会の展示図録。

▶A4判・94頁／定価1,050円

ISBN978-4-7842-1567-6

**与謝野晶子の「源氏物語礼讃歌」**

伊井春樹著

小林一三による与謝野家への物心両面での庇護下、「源氏物語礼讃歌」が詠まれた背景、いつ秋成の短冊屏風を目にしたのか、さらには晶子自身においても、代表作としての認識がどのように醸成されていったのか、逸翁美術館特別展覧会のテーマをより深く追い求めた一書。

▶A6判・226頁／定価1,470円

ISBN978-4-7842-1568-3

**幸田露伴の世界**

井波律子・井上章一編

従来、全面的な研究がなされていない幸田露伴について、さまざまな分野の研究者が集まり、小説や評論など文学面はもろんのこと、都市・自然観察・人生論等々の著作を通じて多様な角度から露伴にアプローチする。国際日本文化研究センターで行われた共同研究の成果13篇。

▶A5判・320頁／定価5,250円

ISBN978-4-7842-1444-0

**中国語圏における厨川白村現象**

工藤眞正著

隆盛・衰退・回帰と継続

厨川白村の著作が彼の死後、日本では急速に忘れ去られたのに対し、中国語圏(中国、台湾、香港)の知識人たちの間では、今なお知名度が高い。いかに受容・翻訳され、その特徴はいかなるものだったか、基本的資料を示しながら考察。厨川を軸とした日中台の文学交流史。

▶A5判・370頁／定価6,300円

ISBN978-4-7842-1495-2

**\*中国文人画家の近代 豊子愷の西洋美術受容と日本**

西楨偉著

豊子愷は民国期から人民共和国期まで世相人情を反映する抒情漫画や随筆の名手として身辺雑事から文学・美術・音楽などを題材に軽妙な語り口の散文を遺した。「中国」「日本」「西洋」という三つの視点を掛け、豊子愷が日本を通して西洋美術を受容したことの意義を問うと同時に「文化の越境者」彼の本質に迫り、20世紀日中知的交流の軌跡を検証。

▶A5判・384頁／定価5,775円

ISBN4-7842-1230-2

**\*谷崎潤一郎と世紀末 大手前大学比較文化研究叢書1**

松村昌家編

大手前大学で行われた日本比較文学学会全国大会のシンポジウムをもとに海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。谷崎が世紀末のデカダンスの洗礼を受けたとされるノルダウの「世紀末」とクラフト＝エービングの「マジヒズム」の翻訳を収録。

▶A5判・212頁／定価2,940円

ISBN4-7842-1104-7

**阪神文化論**

大手前大学比較文化研究叢書5

川本皓嗣・松村昌家編

歌枕に詠まれたいにしへの芦屋の浜、歌人や作家に愛され、その作品に影響を与えてきた芦屋・西宮など阪神間の風土、さらに開港早々慌ただしい歴史の舞台ともなった神戸——文学、歴史から阪神文化の神髄に触れる。【目次】歌枕の詩学／松瀬青々論／昭和初期の神戸における青年団運動について／A・B・ミットフォードと神戸事件 ほか

▶A5判・290頁／定価3,360円

ISBN978-4-7842-1398-6

**ヴィクトリア朝英国と東アジア 大手前大学比較文化研究叢書3**

川本皓嗣・松村昌家編

近代化過程における日本・中国・朝鮮と英国との文化交流誌。

【目次】ムスメに魅せられた人々/交差する両洋の眼差し/福次論吉におけるW・バジョット問題/ミルのOn Libertyは明治日本と清末中国でどのように読まれたか/中村正直訳『自由之理』と敵復訳『羣己権界論』/『ライストレイテッド・ロンドン・ニュース』の東アジアなど

▶A5判・280頁／定価3,360円

ISBN4-7842-1297-3

**視覚芸術の比較文化 大手前大学比較文化研究叢書2**

武田恒夫・辻成史・松村昌家編

源氏物語からラファエル前派まで、日欧の古代から現代までの文学テキストと絵画・工芸などとの関わりを、まるで謎解きのように縋っていく。文学と視覚芸術の交差点。【内容】物語絵から物語図へ/工芸を着る/むさしの、そして『武蔵野』まで/ゴッガン作《デ・ハーンの肖像》に描かれた書物/マンチェスター美術名宝博覧会 など

▶A5判・256頁／定価2,940円

ISBN4-7842-1187-X

**一九二〇年代東アジアの文化交流**

川本皓嗣・上垣外憲一編 大手前大学比較文化研究叢書6

1920年代日本はいわゆる大正デモクラシーの時代であり、経済の好景気と比較的安定した国際関係によって、海外との交流が新たな展開を見せた時代であった。明治期の交流にくらべて研究の事例も少なく、未開拓の部分も多い1920年代の東アジア文化交流の様相を、当該各国の研究者を結集することによって、明らかにする8篇。

▶A5判・232頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1508-9

**滅びと異郷の比較文化**

日本比較文学会編

第一線で活躍する比較文化研究者が「滅び」と「異郷」のヴィジョンを東西の文学・文化・美術に探る。

【目次】Ⅰ 滅びのヴィジョン／滅びとエロス・滅びと再生 Ⅱ 異郷のヴィジョン／遙かなる異郷・訪れた異郷・見出された異郷

▶A5判・516頁／定価14,700円

ISBN4-7842-0821-6

**俳句とジャポニスム メキシコ詩人タブラーダの場合**

太田靖子著

90年前にスペイン語でハイクを書いていた詩人、ホセ・ファン・タブラーダ。彼がいかにして日本の俳句を知り、ハイクを創作するに至ったかを明らかにし、日本の俳句の本質へ如何に接近したか、その評価を試みる。俳句をスペイン語圏に広めた第一人者でありながらも、いまだに研究の乏しいタブラーダのハイク作品に光を当てた一書。

▶A5判・328頁／定価6,090円

ISBN978-4-7842-1404-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。